

**第1回 福岡空港回転翼機能移設事業に係る
環境影響評価事後調査委員会**

(議事要旨)

日時：令和3年3月5日(金) 13:00～15:00

場所：パシフィックコンサルタンツ(株)九州支社 会議室

出席委員：

田村 耕作 (日本野鳥の会 福岡支部 副支部長)

畠 佐代子 (全国カヤネズミ・ネットワーク 代表)

松藤 康司 (福岡大学 名誉教授)

吉久 光一 (名城大学 理工学部 教授)

<敬称略：五十音順>

議事要旨：

1. 委員会の設立について

- ・設置要綱(案)が承認された。(令和3年3月5日付けで施行)
- ・委員の互選によって、松藤委員が委員長に選出された。
- ・委員会で委員に配布される資料は、透明性の確保を図る観点から原則公開とする旨、合意された。
- ・委員会の議事録は、意見及び質問、事務局の回答及び対応から構成される要旨とし、大阪航空局HPにて公表する旨、合意された。
- ・なお、種の保存・生息環境の保護等の観点から配慮が必要なものについては、配布資料及び議事要旨ともに委員の合意を得て該当箇所を非公開とする旨、合意された。

2. 福岡市環境影響評価条例に係る手続きについて

- ・事務局より、福岡市環境影響評価条例に係る手続きについて説明を行い、内容の了解がなされた。

3. 環境保全措置及び事前調査結果について

- ・資料3「環境保全措置及び事前調査結果について」について、事務局より説明を行い、内容の了解がなされた。

4. 環境保全措置及び事後調査結果(第1期：令和2年度)について

- ・資料4「事後調査計画について」及び資料5「環境保全措置及び事後調査結果(第1期：令和2年度)について」について、事務局より説明を行った。
- ・以下の質疑及び助言が行われ、事後調査結果について了解が得られた。

【個別的事項】

■資料4-P2

委員：マイクロフォンの側に風向風速計が置かれているが、機械式の風向風速計は音がするため、

あまり近づけない方がいいので、写真を差し替えること。

事務局：測定時には離しているの、測定時の写真と差し替える。

■資料 4-P4

委員：低周波音の測定の場合は、その場所で風向風速を図る方が良いが、航空機騒音の測定時は気象台のデータを使った方が良い場合もある。

事務局：気象台のデータを採用する。

■資料 5-P2～P12

委員：航空機騒音及び超低周波音に関しては、想定範囲で調査が進んでいると思われる。

■資料 5-P3、4

委員：③雁の巣地区住宅地において、航空機騒音の測定値が大きく（5 デシベル以上）下がっている。有効データ数が減少したことが要因の一つと考えられる。有効データ数の減少は、暗騒音が増えたためと思われるが、暗騒音が増えた理由は何か。

事務局：測定値が道路から近く、道路からの騒音の影響を受けやすいためであると考え。

委員：来年度以降の測定時にも、暗騒音が増える傾向になるか、注視すること。

■資料 5-P2、3

委員：航空機騒音、超低周波音において、⑧雁の巣レクリエーションセンターの調査地点はなぜ変わったのか。

事務局：イベント等の状況を踏まえ、管理者と調整の結果、少し南側に変更となった。

委員：経年的な比較をするため、事後調査においては、同じ地点で測定すること。

■資料 5-P7、8、12

委員：超低周波音の睡眠影響については、(評価書に合わせて)G 特性ではなく平坦特性により、評価すべきである。

事務局：ご指摘の通り修正する。

■資料 5-P8、12

委員：超低周波音の目標値の超過について、8 箇所のうち、超過した地点は 2 箇所あるが、うち 1 箇所（筑紫少女苑）は住居として使用しているの、筑紫少女苑については、屋内でも測定することが望ましい。

事務局：来年度以降、屋内で測定することで計画する。

委員：冬季の筑紫少女苑において、ヘリコプターは 66 回中、46 回目標値を超過している。超過したヘリコプターは、どこを飛んでいる時に観測されたのか、場周経路はどこなのか、機種等、飛行情報等を整理しておくこと。来年度の調査結果も踏まえ、原因を分析する必要がある。

事務局：承知した。

■資料 5-P15、17

委員：カヤネズミに関しては、巣数が増えていることから、個体数が順調に増えていると考えてよい。

■資料 5-P19、20

委員：東西方向、南北方向とも事業実施前は 50m までの飛翔が多かったが、事後調査では 50～100m の飛翔が増えている。従って、飛翔高度については、「大きな変化なし(50m 以下)」ではなく、50m 以上は増加傾向にあるのではないか。また、50m 以上を飛んでいる種類についても確認しておく必要がある。

事務局：100m 付近、100m 以上では、トビ、カワウ、ミサゴ、カモ類が確認された。

委員：事業実施前より、高度を飛翔している種類が増えているのは、バードストライクの懸念があり、ヘリコプターに取っては良くない傾向である。自然環境が良くなったとはいえないので、来年度の調査においても、注視する必要がある。

事務局：ご指摘を踏まえ修正の上、来年度の調査においても、種類・高度は確認する。

■資料 5-P22

委員：ニホンアナグマがかなり増えているが、単純に数が増えたのか、この移動経路を使わざるを得ない状況になった等、何か理由はあるのか

事務局：カメラの前にある用水路跡でアナグマが繁殖したためと考えられる。

■全般

委員：コロナ禍の影響を受けて、飛行経路や飛行回数等、想定とは異なる点はあると思われるが、今年度の調査では特に大きな問題は起きていないことが確認出来たと思う。

5. 今後の事後調査計画（案）について

- ・資料 6「今後の事後調査計画(案)について」、事務局より説明を行った。
- ・以下の質疑及び助言が行われ、今後の事後調査計画（案）について了解が得られた。

【個別的事項】

■資料 6-P2

委員：⑧雁の巣レクリエーションセンターの位置を修正すること。

事務局：ご指摘の通り、修正する。

■資料 P6-P3

委員：環境保全措置（草刈り）については、営巣地の管理の仕方が大事になってくるので、きちんと伝承出来るようにマニュアルを作成するように。

事務局：承知した。

■全般

委員：鳥類や生態系については、基礎データとして、貴重なデータがあるので、個体数の他に

種等、きちんと記録することにより、議論しやすくなる。

事務局：了解した。

6. その他

- ・今後のスケジュールについて、事務局より説明を行った。

以上